

畠中 秀幸

Hideyuki Hatakenaka

「音楽のような建築を…建築のような音楽を…」をモットーに、場づくりを行っています。

イメージとコストの関係を読み解きながら、住宅の社会的・資産的価値についても深い考察が必要であると考えています。と同時にソフトとハードが幸せなバランスを保った環境を、自身の闘病経験を生かして、単なる物理的な意味を超えた「精神的なバリアフリー」というカタチに昇華したいと考えています。



1969年 広島県生まれ
 1992年 京都大学工学部建築学科卒業
 1995年 同大学院工学研究科修士課程修了
 1995年 (株)アトリエバンク勤務
 2001年~北海道工業大学非常勤講師
 2003年 一級建築士事務所/音楽企画事務所
 スタジオ・シンフォニカ有限公司設立
 2008年 「第8回きらりと光る北の建築賞」受賞
 六書堂新社屋
 2009年 「第14回札幌市都市景観賞」受賞
 六書堂新社屋
 2010年 「狸小路クロスポイント再生コア作り
 企画提案コンペティション」最優秀賞
 2011年~脳卒中を患うもリハビリをしながら活動と継続中

スタジオ・シンフォニカ有限公司

〒063-0826
 札幌市西区発寒6条12丁目4-44
 TEL:011-215-6400
 FAX:011-213-9510
 Mail:aed73610@star.odn.ne.jp
 URL:http://www.sinfonica.co.jp



ミニマリストの家

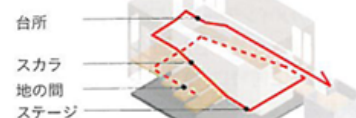
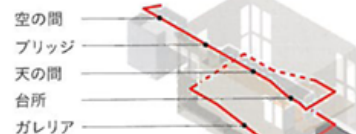
本住宅は、次の二つの主旨をもとに構成されています。

- 1 音楽を趣味とする施主が、ほとんどモノをもたないシンプルな生活を望んでいること。
- 2 敷地周辺に広がる公園や石山緑地など様々な風景を取り込むこと。

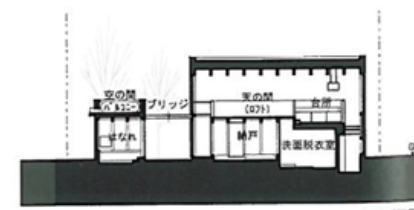
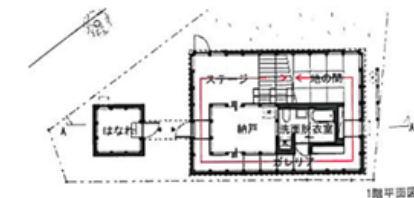
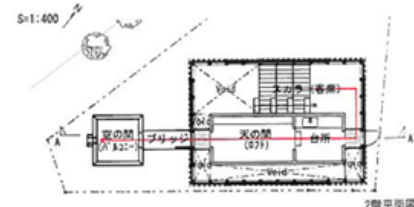
設計に当たり玄関や居間、ダイニングキッチン、寝室などが本当に必要なかがまず検討されました。住宅としての機能を保ちつつ、既存のコードを疑いつつ、要素を削ぎ落としながら設計を進めていった結果、風景もしくは陰影の変化や回遊性、さらには可変性といった、行為に基づいた時間の推移がテーマとして導き出されました。これらを実現するための手法として、ルーバー状の貫材に覆われながら、その四隅に周辺の様々な風景を取り込むための開口部をもつスケルトンの木の箱＝「うち」の中に、水周りなど固定化を必要とする機能を有する白い箱＝「うちのうち」を自律した状態で挿入しました。このことにより余白としての「うちのそと」としての空間が生まれ、そこを客席にもなるスキップフロアを手掛かりとした18層からなる立体的な回遊動線で結びました。また同時に、はなれとしての白い箱＝「そとのうち」を木の箱の外に配置することにより「うちとそと」の関係の複層化を試みました。これらが上記のテーマを具現化する最も有効な構成として提案されました。これにより、この最下層の地の間～書斎をもつガレリア～ステージ～スカラ(階段状の客席)～台所～天の間(ロフト)～ブリッジ～最上層の空の間(バルコニー・はなれのうえ)に至る、あたかも広場や露地のような筆書きの45mに及ぶ回遊空間を曲がるたび、また昇り降りするたびに、風景や光の質が変化する、シーンを固定化させない生活が生まれました。

今回紹介した画像は、すべて実際に生活している状態のものです。現在、子供が独立した後の他用途への転用をも視野に入れつつ、「住宅に何ができるか」を模索するために音楽会や美術展の企画が進行中です。

18層からなる立体的な回遊動線



コンセプト図



主要 DATA
 [構造規模] 木造2階建て、延床面積:100.23㎡、[主な仕上] 外部:屋根/ガルバリウム鋼板、外壁/角波ガルバリウム鋼板t=0.35の上 ホルバー・ジョリット、内部:床/コンクリートコテ仕上げ・無垢フローリング、壁/構造材現し・ホタテ貝殻入り珪藻土、天井/構造材現し、[開口部] 木製サッシ、[断熱仕様] 基礎/FP板50mm(基礎断熱)、壁/FP板50mm、天井/FP板150mm、[暖房方式] 土壌蓄熱式輻射熱暖房システム、[その他] 完成:2009年10月



木の箱と白い箱との関係性



ステージからスカラを見る



左手に書斎のあるガレリアを、右手に地の間を見る



公園から全体を見る